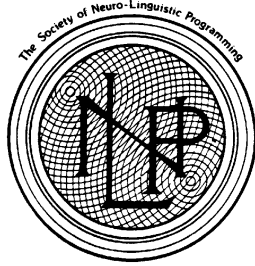


THE SOCIETY OF NEURO-LINGUISTIC PROGRAMMING

The Society of Neuro-Linguistic Programming代表
1983年以来全レベルを認定



Christina Hall, Ph.D.
Director
P.O. Box 7818
Santa Cruz, CA 95061
Tel: 831 425 4614
Fax: 831 688 1715
CNLPHALL@aol.com
www.chris-nlp-hall.com

アート・オブ・NLP マスタープラクティショナー認定基準

あなたの受講者が、米国 NLP 協会から NLP マスタープラクティショナーとして認定を取得するには 48 時間以上の NLP マスタープラクティショナー・トレーニングを受けている必要があります (米国 NLP 協会認定マスタープラクティショナー講座を開催する際は 48 時間以上のトレーニングを提供して下さい。※小休憩の時間はカウントに入れることができます。ランチタイムはカウント不可です)。

一連のコミュニケーション能力は、インプット・スキル (検出)、内的表象スキル (処理、認識) と、ふるまいのアウトプット・スキル (活用・利用) により成立する。以下の主要なコンテンツの分野は、この一連の基本的スキルにより構成されている。

プラクティショナー・レベルにおいて、参加者は神経言語プログラミングの基本的な態度、意図、方法論、技術の土台にある NLP の機能的前提について学ぶ。NLP マスタープラクティショナーは、そのふるまいの中で、NLP の機能的前提をふまえて、具体化し、行動に移し続けることが期待されている。

更に、NLP マスタープラクティショナーは、(「アート・オブ・NLP・プラクティショナー認定基準」に概説されているように) プラクティショナー・トレーニングの基礎を活用する際に、その高まる能力と、多様性、熟達の度合いを行動に示すことが期待されている。そして、次ページの包括的分野に関連する言語スキルと非言語コミュニケーションをより多様に、そして効果的に表現すること：

1. マルチ・レベル・タスク 例：下記を含む、目的のあるマルチ・レベルなコミュニケーション：

【A】意識レベルのコミュニケーション形態と無意識レベルのコミュニケーション形態の違いを検出する。

【B】「コンテンツ」と「コンテンツの形態」（コンテンツの内的表象、VAK／サブモダリティ等）を区別する。

2. 複数の技法の要素を組み合わせ、それぞれのニーズに合わせた（カスタマイズされた）インターベンション（介入）を設計する。

3. 自分自身の柔軟性、可変性、創造性、可動性を促進するように、NLPマスタープラクティショナー自身が意識のステートと生理状態（フィジオロジー）を構築し、活用する。

4. 思考とふるまいの選択肢の幅を広げていくような形で、自分自身と他者のために発見と、創造性と学びの機会を広げておくために、NLPマスタープラクティショナー自身が視点や、状態、ふるまい（例えば、「リソースフル」とは言えない状態を中断し、方向を変えるために、習慣的な表象システムを再配列するなど）を意識的にシフトさせる。

NLPマスタープラクティショナーは以下の具体的な分野で能力の向上を示すことが期待される。

具体的なスキルの分野とは：

1. メタ・プログラム

【A】様々なメタ・プログラムを前提とするような言語および生理的（フィジオロジー）マーカ―を検出し、識別する。

【B】メタ・プログラムを一連の「診断」ツールとしてだけでなく、適格化されたアウトカムの設定と、望ましい変化を起こすプロセスにおけるペーシング、リーディング、動機付け、情報の再組織化のツールとして導出し、活用する。

【C】全般的に、メタ・プログラムを活用し、リソース・システムとして機能させるようにする。

※あなたがお持ちのトレーナーズトレーニング・マニュアル、P. 97「メタプログラムのプロセス」の項目をご参照下さい。

2. 結果を枠組むための高度なスキル

【A】アウトカム（結果にフォーカス）と方向設定（達成に向かうプロセスにフォーカス）を区別する。

【B】レメディアルな変化（対症的な変化）と、ジェネラティブな変化（生成的な変化）を区別する。

※訳注：生成的な変化：あらかじめ枠組まれた対症的な変化と違い、予期を越えて、思考と行動の柔軟性と創造性を広げる何か新しいものが生まれるような変化。

【C】アウトカム（変化、学習）の適切な一般化：フューチャーペースを使ってスルータイムでアウトカムを適切に一般化させる。

3. 高度な言語スキル

• 集散的に「言葉の策略（スライド・オブ・マウス）」パターンと呼ばれる言語的区別を検出する。

※あなたがお持ちのトレーナーズトレーニング・マニュアル、P. 146～152「言語の策略パターン」の項目をご参照下さい。

• 様々な「言葉の策略（スライド・オブ・マウス）」パターンを使って、異なるロジカルレベルでリフレーミングする。

例：信念を弱体化/強化して、一般化プロセスの方向を変える。

• 反例（例外）のストラテジーを活用する。例えば、可能性の幅を広げるような形で不調和や葛藤を整理し、より大きな機能的枠組みの中で再統合する。

• より的確に、目的を持ちながら言語パターンを使用する、例：前提に沿って質問を設計する。

4. 価値と基準（クライテリア）

例えば、モチベーション、アウトカム設定、交渉手順、葛藤の解決、ストラテジーなどを、プロセスを支援する目的で、導出、ペーシング、活用、（適切な場合は）調整、稼働できるようにする。

5. 高度なストラテジー・スキル

ストラテジーを導出、設計/修正、導入する。その他のインターベンション（介入）プロセス内にあるモチベーション、説得子、決断、遂行（フォロースルー）などのストラテジーの使い方を学ぶ。

6. トランス

プラクティショナー・レベルのスキルに加えて、トランスを有効に活用するための能力と自らのスキル（後催眠暗示など）を磨き続ける。